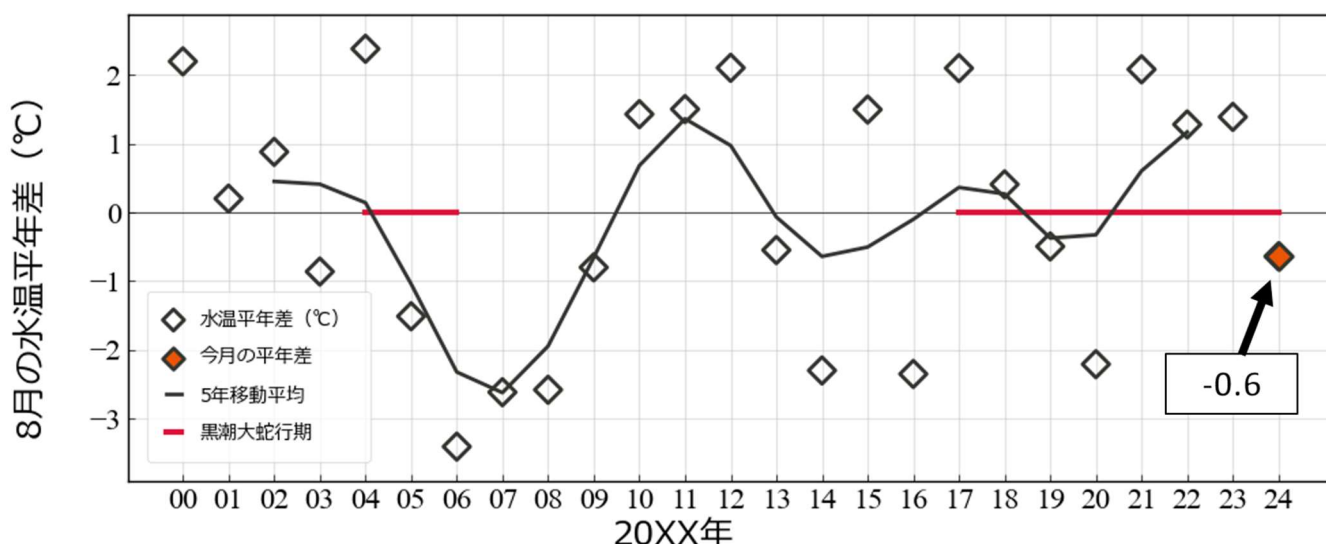


## 【水温の変動】

8月1、2日に、調査船海幸丸により渥美外海の観測を実施しました。

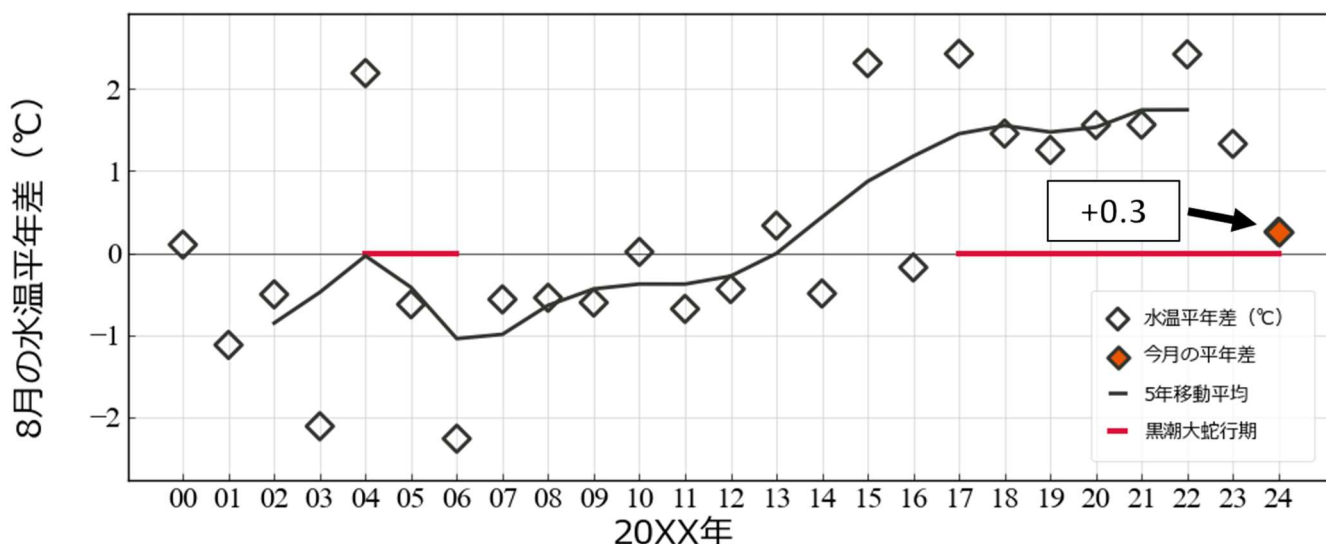
湾口部の海面水温は、平年差 $-0.6^{\circ}\text{C}$ でやや低めとなっています。沖合域水深200mの水温は、平年差 $+0.3^{\circ}\text{C}$ で平年並みとなっています。8月1日の人工衛星画像によると、黒潮は御前崎沖北緯30度付近から御前崎沖北緯34度へ向かって北上するAs型流路となっています。黒潮の北上部は、先週の流路と比べて御前崎に接近しました。渥美外海沖合の表層は、弱く東向きに流れていると考えられます。一方で、伊勢湾湾口から流出した内湾系水の一部は、志摩半島に沿って西に張り出しています。

### 湾口部0m (A1) における8月の水温平年差の変動



※水温平年差は過去30年平均値との差

### 沖合域水深200m (A4, A12, A19 の平均) における8月の水温平年差の変動



※水温平年差は過去50年平均値との差

## 【渥美外海の海況】

海面水温と表層塩分の分布によると、渥美半島沿岸に低水温・高塩分の水塊が分布しています。また、表層塩分の分布をみると、低塩分水が志摩半島付近に分布していることから、伊勢湾湾口の内湾系水の一部が志摩半島に沿って張り出していると考えられます。水温の鉛直断面図によると、水深 100m 付近までは沖へ向けて高くなっており西向きに流れていると考えられます。

水温の水平分布図と水温, 塩分, 密度, クロロフィル a 濃度の鉛直断面図

